

島本町立歴史文化資料館 館報第5号



平成 25 年 9 月

島本町立歴史文化資料館

はじめに

平成20年4月12日、オープンいたしました当館は、皆様のご支援とご協力を賜り、本年、無事5周年を迎えることができました。

昭和16年、有志の方々のご尽力で桜井駅跡記念館「麗天館」として開館しました建物は、当時の趣をそのままに、空の青、駅跡の緑とほどよく調和をし、凜とした風格で来館される方々を、今日も温かく迎え入れてくれます。

5月18日(土)には、開館5周年記念講演会として、関西大学文学部教授 藪田 貫 氏に「史蹟 桜井驛跡物語～むかしといま～」の演題でご講演頂きました。駅跡についての脈々と流れる人々の思いや、時を超えても普遍であるべき姿について、史実や事例を基にわかりやすくお話をして頂きました。ありがとうございました。

平成24年度は、企画展7回、講演会2回、資料館コンサート7回等を計画通り実施することができました。また、発掘調査におきましては、縄文時代の新たな集積跡や、島本町では初めてとなる平安時代の遺構の発見もありました。現地説明会には町外・他府県からも多数関心を寄せて頂きました。

平成25年度も資料館の役割であります、収集・保存(調査研究)・展示の継続と、双方向に開かれた運営を行っていく所存でございます。

いつも温かく見守ってくださる、皆様に感謝をするとともに、今後のさらなるご支援、ご協力を賜ることを願ってやみません。

平成25年9月

島本町立歴史文化資料館
館長 北野 弘範

目 次

はじめに	1
講演会	
「柏木宏之の世界一桜井駅跡『正成・正行親子の別れ』朗読会」	
講師 柏木 宏之 氏	3
「近世の離宮八幡としまもと一社家文書を通して一」	
講師 山中 浩之 氏	5
展示	
常設展 「ひと・もの・みち」	7
町指定文化財「勝幡寺 葉師如来立像」速報展	8
広瀬遺跡発掘調査速報展	8
秋の企画展「近世の離宮八幡としまもと一社家文書を通して一」	9
島本の神事 「山崎地区：椎尾神社」	9
秋の展示 「水無瀬駒 関連資料」	10
新春企画展 「しまもとの郷土かるた」原画展	11
民具・農具展「むかしのくらしと農家のしごと」	11
体験学習 「土器洗いをしてみよう！！」	12
資料館ボランティアの活動報告	12
事業報告	
企画展・催物一覧	13
公募による催物一覧	13
入館団体	14
日誌抄録	14
利用状況	15
寄贈・寄託	15
受入れ図書	16
町指定文化財一覧	18

講演会

「柏木宏之の世界—桜井駅跡

『正成・正行親子の別れ』朗読会」

平成 24 年 5 月 12 日 (土)

毎日放送アナウンサー 柏木 宏之 氏



さあ、時でございます。時代は鎌倉幕府、執権の北条高時の頃でございます。この高時が関犬が大好きで、お酒が大好きで、遊んでばかりでありました。しかし、朝廷の天皇の位は、大覚寺統と持明院統という両統迭立時代でございます。鎌倉幕府が 10 年ごとに順番にやれと決めるんですね。ところが、30 過ぎてやっと天皇になった後醍醐天皇は、何でそんなこと聞かぬあかねや、天皇って言うのは一番えらいんちゃうんかい、と腹に据えかねてくるわけでございます。いよいよ次の天皇に譲らんかという時に、後醍醐天皇の周辺に集まった若い公卿達が、鎌倉幕府をひっくり返してしまえ、六波羅探題を明日攻撃！という晩に裏切り者が出てくる。その企みは潰される。「正中の変」でございます。

さあ、『太平記』という軍記物はよくできた話でございますね。『平家物語』なんかは「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」って琵琶で語ったりして仏教説話から始まります。『太平記』、そんなないんです。なぜかと申しますと、これはリアルタイムに書き綴られた作品だからです。つまり、私がなぜ興味を持ったかと言うと、私がやっている放送の仕事っていうのはまさにこういうことなんです。今何が起こっています。今、というものを記録していった、これが『太平記』であるというふうに読むと非常におもしろいものだとは私は思うんでございます。その中に楠木正成という大スターが登場する。鎌倉幕府の御家人ではなく、地方の土豪、自分たちで武力を持って商売をしたりしている人たちですね、これは鎌倉幕府の統制下にありませんので、悪党というふうに言われた。そういう地方武士団の棟梁でございます。前半生は全くの不明です。楠木正成が登場するのは、37 歳位じゃなかったかと。後醍醐天皇、吉野への逃避行中、笠置山におわす時に、登場するのでございます。

さあ、それでは私の想像する、柏木宏之の世界、『太平記』「桜井の別れ」を中心にお話いたします。事の起りから、朗読をさせていただきます。お聞きくださいませ。

正季「兄貴、えらいこっちゃ。天皇さんが、鎌倉を潰せ、ちゅうて命令を出しはったらしいで。ほんで、怒った鎌倉から、なんやごつぎょうさん軍団がやって来て、天皇さんが都を逃げはったそうやなあ。」

正成「そうらしいな。いや、まあ、わしらとしては河内の村でな、今まで通り平和に暮らせたら、一番ええのんや。それにわしも、鎌倉幕府とかいうのはどやねんと思うてな。まあ、いっぺん天皇さんが考えてはるような平和な世の中がやって来るんやったら、それに賭けてみようかな、とは思うとる。実はな、今、天皇さんがその笠置山に來たはんのや。わしらに力を貸してくれて來たはんのや。」

この後、目のさめるような、千早・赤坂城での戦いがあり、そして、名和長年という人が、隠岐島に流されていた後醍醐天皇を連れて都へ帰ります。「建武の新政」がいよいよ始まります。

ところが、それまで天下を取っていた武士達の所領を全部、朝廷が巻き上げて、お寺・神社・公家とかが所領を持つわけですね。足利尊氏は、この戦に勝って鎌倉幕府を倒したら、足利幕府を作るつもりで、恩賞としてお前にはここの土地をやる、という空手形をいっぱい打っております。ところがそうはいかなかった。そこで武士の面目丸つぶれ。足利尊氏、怒りまして、遂に鎌倉の方に行った、そこで謀反を起こすわけでございます。さあ、いよいよ足利勢が京都へ攻めのぼってきます。しかし、正成の策略で、足利軍は食料を断たれて、都落ちして、西へ西へと逃げてまいります。

でも、源氏長者・足利尊氏というこの肩書、名前がやっぱり人気の元なんです。九州、中国路から京都を指して、尊氏は船で瀬戸内へ、弟、直義は陸路で土豪を糾合しながら、どんどん膨れ上がる大軍団でやって来た。それが今の神戸の湊川、あのへんでございます。さあ、朝廷は大騒ぎ。その時に正成が一つ提案をする。「御上には誠に申し訳ありませんが、ようやく復興ってきた京の街でございますが、叡山にお戻り下さい。今度は前よりもっと大きな網を広げて、足利勢を包み込んでしまいます。」もうそれはね、今の我々が聞いてもびっくりするぐらい大きな戦略です。しかし、建武の新政で自分たちの所領を取り返した貴族たちは京都を離れたくないのでございます。いろんな難癖をつけます。新田勢には神戸の浜へ行って上陸する前に水際作戦でやっつけてしまえと命令をします。

さあ、いよいよでございます。正成、正行、この二人が別れにかかるわけでございます。

桜井の駅でございます。

正成「皆集まったか。ここでうちのものを二手に分ける。正行、お前はこっちを連れて河内へ帰れ。」

正行「なんで。このまま、おトンは、尊氏と合戦するんやろ。わいも行くで。」

正成「あのな、正行、獅子は生まれて三日目に、子供を谷底に突き落とすと言うな。そして険しい崖を這い上がって来た子だけに乳をやるという。わしはお前をここで谷底へ突き落とさならん。ええか、お前はわしに代わって楠木党の棟梁にならなあかんや。そのためには、ええか、和田やんとか恩地、湯浅、八尾の言うことをよう聞いて、河内の里を守らなあかん。力をつけて、わしの志を継いでくれと言うとんや。お前ならできると思うから、河内へ向かえと言うとんねん。…正行、泣かんでもええぞ。」

正行「泣いてんのんちゃう。おトンの、いや大将の気持ちちがようわかったんや。」

というのが、私の中の桜井の別れでございます。でこの後、湊川やあの辺行くわけでございます。新田の大将は囲まれてしまいます。新田勢がここで全部潰れてしまうと、これは京都を守る武将がいなくなるわけでございます。楠木正成はこの時700の手勢で、足利軍を引き付けて、その間に新田軍を逃がす。この後、尊氏は、正成の首を取って、首をさらしはするんですけども、当時はね、塩漬けにするんですね、腐らないように。塩漬けにした首を河内の正行の元に送ります。これは丁重に葬って差し上げよと。父上はよく戦われたという意味なんです。さあこの後、正行は父の遺訓を守りまして、四条畷で大合戦をし、命を落としていくわけでございます。正行さんの四条畷神社があそこにありますんでね。湊川神社、行かはるんやったら、一度は四条畷神社に行って、この桜井で間違いなく親子の別れをした親子を偲んでみてはいかかなと私は思うわけでございます。

今日は大変長いことお付き合いいただきまして、誠にありがとうございます。本日はこれまででございます。

講演会

「近世の離宮八幡としまもと一社家文書を通して」

平成 24 年 9 月 15 日 (土)

大阪府立大学名誉教授 山中 浩之 氏



私は、古文書を中心にやっております、この離宮八幡の松田家の古文書を調べさせていただくいい機会を与えていただき、新たにこの地域の歴史・文化というものに触れさせていただきました。

まず、離宮八幡あるいは島本町を含む大山崎がどうやってできたのかを知っていただく必要があると思います。離宮八幡の由緒では、宇佐八幡から勧請して山崎を経て石清水へ遷座されました。そして、石清水八幡が最も中心的な神社で武家とつながりをもっていきます。

離宮八幡あるいは大山崎という油座が有名です。13世紀頃、鎌倉時代から石清水八幡宮を本所とし、荏胡麻油の製造・販売の特権を獲得したことが史料で確認されています。諸役・関銭・徳政の免除、そして同業者の商売の停止という大きな特権により保護されていました。それに対して灯油料その他一定の負担を納めていました。そして15世紀半ば頃、地域の結びつきが非常に強くなり離宮八幡の北側にある天神八王子社の酒解神社を核とした地域の祭礼等を担う人々が宮座を作ります。酒解神社を中心に石清水から独立しようという動きが強まったと考えられます。こういう動きは、中世の堺と同様に自治的な町の結びつきが大山崎で作られ出されていたということになります。そして、石清水から独立し大山崎の中核的な神社として離宮八幡は本格的に形成され、名実ともに離宮八幡の油座神人となり、油の製造・販売の権利が瀬戸内海から九州に至る範囲まで拡大していきました。最も経済的な繁栄がこの時期にありました。今回紹介する古文書の中に寛正5年(1464)の日付をもつ中世文書あり、そういう特権に関わる内容をもちます。まさに地域が自治的な共同単位として形成されていった時期です。こういう中世の油座に関わる文書が残されていたというのも今回の調査の成果の一つだと思っております。

さて、社家による離宮八幡の運営と神領の「自治的」支配についてです。16世紀半ば頃、織田信長は堺を支配下に置きますが、大山崎に対しては自治的な支配をそのまま認めました。それは、都市機能や経済機能をより有効に発揮できるという判断があったからです。豊臣秀吉の検地では、年貢が免除され社家達に運営すべてが委ねられました。史料『八幡宮御朱印状写并社領・造営略記』にみえる家康の朱印状にも検地をしたけれど地元で「悉く返し遣わす」とあります。土地の収穫等は神社へのお供え、祭礼、神事、修復のために社家や神人たちによって適切に配分しなさいというわけです。そんなところは他にありません。また、中世に形成された自治的な地域共同体が維持されていたため、山城と摂州の惣中が国をまたがって一体的な結びつきを持っていました。西国街道が通っているため堺や寺内町のように堀や土塁で町を囲い込むことはしていませんが、街道の入口と出口に門を造り開閉する形をとっていました。支配の構造ですが、社家は多いときで100軒以上ありましたが、その代表が6人決められていました。これが当職と呼ばれ合議制により多数決で運営されていました。その下に社役人、下若衆、上若衆中と呼ばれる人々がいます。そして11の小さい保というほぼ一つの町にあたる区域に分かれて居住しています。寛正5年(1464)の文書の中にも中村保、船橋保という保の名称がすでにみえます。非常に古くからこの地域の惣中によって区

画されていたようです。そしてそれぞれの保ごとに貫首という保の運営責任者のような人がいます。

近世に入ると、経済的には厳しい状況に陥ります。中世の繁栄は、油を中心とした特権によって築かれたと言ってもいいものでした。ところが、荏胡麻油よりも菜種の方が透明度が高く生育しやすく、需要が増してきました。そして大坂周辺における菜種油の製造・販売によって近世の油需要は賄われていき、大山崎の油は衰退していきます。大山崎惣中の経済的基盤が弱くなったということです。ただ、大坂の油屋たちにとって離宮八幡、大山崎は油の神様というイメージがありましたので、御初穂料は定期的に納めていました。それと、社家が約100軒もありますと、一軒ごとの配分量はかなり少なくなります。それで神社を維持し、また修復等を行うとなると相当の支出が嵩んだに違いありません。だから、離宮八幡あるいは社家の経済は停滞せざるを得なかったと思われます。社家が幕末期には50軒までに減少し、社家内部に格差ができ、経済的利害対立が生じ一部社家による恣意的な支配も生じたと見られます。幕末期に切実に自覚した社家の人々が、この現状では地域の自治、あるいは離宮八幡自体が潰れて行くのではないかという危機感を持ちます。それで安政3年(1856)に、神領改革の定書を作成しました。この改革で強調されているのは、6人の当職だけによる決定というものを、極力排除しようということです。この様なことを言わざるを得なかった背景には、やはり当職たちによる金銭運営に何らかの問題が生じていたということになります。公正な運営に戻そうという動きの中で、禁門の変が起こり離宮八幡に砲弾が撃ち込まれ焼失する事態となりました。この時、社家たちは朝廷へ寄付を願い出て、離宮八幡の再建に奔走しました。

そうこうしているうちに激動の世の中です。鳥羽伏見の戦い。新たな維新政府が成立し、400年続いた大山崎惣中のあり方がどうなるかと大きな危機感が感じられた時、最後の改革が企てられました。明治元年の史料『社家改革條々』の序文の部分には、「御神領一鉢、旧来之陋習ヲ去り、未曾有之御変革」をしないと社家滅亡の危機だと書いています。全25箇条の中で注目すべき第1条は、当職6人を社家達で選ぶのではなくて、百姓・町人達によって選挙で選ぶとまで書いています。これはかなり思い切った改革です。そして社家へ配当される500石余りを廃止してもいいとさえ言っています。そこまで改革をやらないと、維新政府にすべてを没収されるであろうと思っていたということです。しかし問題はその署名の部分です。40数軒の社家の内、24軒ほどはこの改革案を進めようとしています。他は「改革不承知」となっています。その後、大山崎惣中の自治的共同支配は一挙に解体していきます。11保の惣中支配の自治共同体は2つの村に分かれて庄屋支配になり、政府による年貢負担のかかる土地として扱われます。400年にわたる惣中による自治支配、年貢免除地としての支配は実質的には終了します。その後、社家という資格、立場も明治の神社政策の中で失われます。つまり中世以来の血脈を伝える社家は一家のみに限定され、神官、社家であることも消滅せざるを得ないということになったわけです。

この大山崎の極めて稀な自治的共同支配が中世を越えて近世においても持続していたということは、全く他の土地にはなかったあり方で非常に独自なことだと思います。町が経済的な変化の中で地域自治を公正に順調に維持していくことの困難さも痛感させられます。だから、この地域住民による自治がどのように形成され、またどのように変容せざるをえなかったかということは、今後の地域自治を考えていく上でも貴重な歴史的な教材を提供しているということになります。これで終わらせていただきます。

展示

常設展 「ひと・もの・みち」

島本町は、大阪府と京都府の境に位置し、桂川、宇治川、木津川の三川合流の地にあります。

町の中心を西国街道が通り、古来水陸の交通の要衝として栄えてきました。

その街道沿いに当資料館があります。

このような背景を中心に「島本と西国街道 - ひとものみち -」をテーマに展示をすすめてまいります。島本町の文化財を広く知って頂くために、適時展示替えを行っています。

写真は、島本に残る“桜井里焼”です。江戸時代を通じて桜井村の庄屋を務めていた、清水家第十六代目清水太左衛門寛蔵が風雅を嗜み、茶の湯の道から、当時名工と誉れ高い初代高橋道八周平について陶芸を習得しやがて天明2年(1782)開窯、大正6年(1917)に廃窯となりました。

“桜井里焼”が名実ともに盛時を迎えたのは江戸時代末期(1804～43)作陶二代目太左衛門の代です。寛政4年廣瀬村明細鑑記録(郷土島本研究会発行)の「摂州嶋上郡村名高附」によれば、桜井村庄屋太左衛門は他村に見られない庄屋扶持として老石八升の記入があり、清水姓を用いています。後に史跡桜井駅跡では「楠公焼」の押印で販売され土産物として喜ばれました。「桜井焼」「桜井里」押印のものもあります。



また館内では、いろいろな体験をしていただけます。

足踏みミシン、縄繰え機など季節に応じて材料の準備が整っている時には受付に声をお掛けください。体験のお手伝いをいたします。どんどん、資料館を活用していただきたいと思います。



昭和の足踏みミシン



現役の縄繰え機

開館時間 午前9時30分～午後5時
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日休館)
12月29日～1月3日
特別展準備期間

町指定文化財 「勝幡寺 薬師如来立像」速報展

展示期間：平成 24 年 4 月 27 日（金）～平成 24 年 7 月 8 日（日）

町指定文化財第 4 号に山崎四丁目の勝幡寺に伝わる薬師如来立像が指定しました。

寺に残る永正 16 年（1519）の縁起によれば、養老元年（717）僧行基が開創し、自作の薬師如来像を安置したとあります。また縁起には、永正 13 年（1516）兵火にかかり全焼し、その折、木尊の薬師如来像は僧によって抱え出され、焼失を免れて今日に至っています。

実物の一般公開を平成 24 年 10 月 27 日（土）、28 日（日）に行いました。ご住職から詳細な写真を見せていただきながらの説明もあり、両日で 145 名の見学者がありました。



広瀬遺跡発掘調査速報展

展示期間：平成 24 年 7 月 11 日（水）～平成 24 年 8 月 26 日（日）

出土遺物を中心として調査風景写真などと共に、平成 22・23 年度に行った広瀬遺跡の発掘調査成果を、展示しました。

堂後・大街道地区の調査では、寺院の建物の一部の可能性がある石敷きや近世の井戸、大量の土器が廃棄された斜面などを検出し、国木原地区の調査では、平成 21 年度の発掘調査で検出した水無瀬離宮に関連すると思われる建物跡と同様の石敷きを検出しました。また、国木原地区の調査では、溝跡から平成 21 年度の調査で出土した瓦と同様の瓦が出土しており、この調査地点も水無瀬離宮に関連する建物が建っていた可能性が高いと思われます。



当資料館において、発掘調査の速報展を行うことは初めての試みでしたが、島本町の最新の文化財情報を発信するために、次年度以降も速報展を続けていきたいと思っております。

秋の企画展「近世の離宮八幡としまもと—社家文書を通して—」

展示期間：平成24年9月12日（水）～平成24年10月18日（木）

講演会日時：9月15日（土） 午後2時～

講演会名：近世の離宮八幡としまもと — 社家文書を通して —
大阪府立大学名誉教授 山中 浩之

【展示】

文書を所蔵される松田家（町内在住）は、もと離宮八幡宮の社家としての系譜を持ち、かつて、五保・六保で構成されていた社領のうち、五保に属した溝口保（現大山崎町）に在住されていた家です。

現在保存されているのは、204点あり、近世中期から明治初年にかけてのもので、離宮の造営に関わるものや社家の改革に関わるものなどを紹介しました。

また、講演会では、離宮八幡の歴史、大山崎惣中の形成、近世離宮八幡の造営・修復・焼失などの話を中心に、社家による離宮八幡の運営と神領の「自治的」支配から終焉に至るまでの動向など、離宮八幡宮社家の近世、特に幕末維新期の動向や地域の歴史の一端を知ることができました。



島本の神事「山崎地区：椎尾神社」

展示期間：平成24年度12月19日（水）～平成25年1月30日（水）

島本町の各所でそれぞれの「祭」が行われます。季節も様々に日時も、時代を反映して関係者の都合で変化して来ました。

今回は、天王山トンネルの麓に位置します『山崎椎尾神社』の例祭を写真パネルでご覧しました。

椎尾神社は、素盞鳴命、聖武天皇、後鳥羽上皇を祭神にお祀りしています。

神事は、宮司によるお祓いに始まり、祝詞奏上、総代の玉串奏奠が境内の拝殿前で執り行われます。



秋の展示

「水無瀬駒 関連資料」

展示期間：平成 24 年度 10 月 31 日（水）～平成 12 月 9 日（日）

【展示】

水無瀬神宮に約 400 年伝わる「水無瀬駒」。

その関連資料のうち、当時の将棋のルールブックともいえる「象戯圖（しょうぎず）」に焦点をあて、水無瀬駒に関係した展示を行いました。現在普及している将棋は 40 枚の駒で指しますが、中将棋は 92 枚、他の将棋では、132 枚、多くは 354 枚など見慣れない駒が列記されているのも新しい発見です。

期間中に資料の実物展示を行い、水無瀬兼成が書く美しい文字にも魅了されました。



実物展示 『象戯圖（しょうぎず） 二巻』 日程：11 月 17 日（土）・18 日（日）



《象戯圖》

「水無瀬駒 関連資料」の中には「象戯圖」が二巻伝えられています。

内容は、小象戯、中象戯、大象戯、大々象戯、摩訶大々象戯、大(泰)将某の初期配置、表裏の文字、駒の進め方などが図示されており、将棋の指し方を知る最古の資料です。

【中将棋教室】

日程：11 月 27 日（土）・12 月 1 日（土）

町指定文化財「水無瀬駒」に中将棋があります。一般的にはなじみの少ない中将棋ですが、中将棋の普及のため、島本町「水無瀬駒」による地域活性化事業実行委員会が主催し、島本町教育委員会協力のもと、中将棋教室が開催されました。多くの大人たちに混じって小学生も参加し、大人顔負けの腕を披露して楽しい時間を過ごしました。

本町では、資料館の展示を通して、町の大切な文化財「水無瀬駒 関連資料」の普及・啓発に努めています。



新春企画展

「しまもとの郷土かるた」原画展

展示期間：平成 25 年 1 月 4 日（金）～平成 25 年 1 月 30 日（水）



資料館毎年恒例「しまもとの郷土かるた」原画展も、平成 24 年度で 5 回目となりました。企画展では、「く」「や」「ま」の計 3 枚の絵札を展示しました。

島本町には、幕末の戊辰戦争の際に楠葉砲台からの砲弾が民家に落ち、民家の柱を傷つけたという砲弾とその柱や、町指定文化財「宝城庵 薬師如来立像」、「平家物語」に登場する待宵小侍従の墓といわれる石塔とその顕彰碑が残され、その伝承とともに古くから語り継がれてきました。島本町に残る伝承や史跡などをもとに、切絵で描かれた絵札の原画を紹介しました。

【過去の企画展】

年度	絵札	枚数
平成 20 年度	「い」、「ろ」、「は」、「に」、「ほ」、「へ」、「と」	計 7 枚
平成 21 年度	「ち」、「り」、「ぬ」、「る」、「お」、「わ」、「か」	計 7 枚
平成 22 年度	「よ」、「た」、「れ」、「そ」、「つ」、「ね」	計 6 枚
平成 23 年度	「な」、「ら」、「む」、「う」、「の」	計 5 枚

民具・農具展

「むかしのくらしと農家のしごと」

展示期間：平成 25 年 2 月 1 日（金）～平成 25 年 3 月 3 日（日）

毎年この季節に、昔使われていた民具や農具を展示し、むかしの暮らしと昔の農業について紹介しています。

むかしの農業と農具は、春は田起しに使う道具など、その季節ごとに使う道具をその作業とともに解説しました。また「足踏み式ミシン」や「縄ない機」など民具に触れ実際に体験していただくコーナーを設置しました。

昔の人たちのくらしと智恵や伝統に触れ、昔の人たちの偉大さを感じていただけた展示になったのではないのでしょうか。



体験学習

「土器洗いをしてみよう!!」

日程：平成24年7月21日(土)、28日(土)、8月11日(土)

島本町内の調査地より出てきた遺物の土や汚れを取り除く作業を、参加者のみなさんに体験していただきました。今回は、須恵器や陶磁器類などの出土遺物を洗う体験をしていただきました。

焼成がよく、比較的強く洗っても表面を傷めることの少ない遺物です。

縄文土器、弥生土器、土師器など素焼きのものは、強く洗うと表面の文様や調整痕などを傷めることがあるので、注意が必要となります。

参加した小学生の感想は「昔の土器にさわれた」「昔の島本の歴史を知ることができた」「あらうのが楽しかった」などの声が聞かれました。

次回の企画につなげるエネルギーをいただき、職員の新たな原動力とさせていただきます。



資料館ボランティアの活動報告

平成20年の開館に併せて、歴史、文化に興味があり資料館の展示解説などを中心に活動をしていただけるボランティアの方を募集いたしました。

ボランティア活動に必要な講習を受講いただき、現在5名の方が活動中です。

概ね月1回のボランティア館内会議で、島本町内及び資料館での行事を先行してお知らせし、事前学習、体験をしていただいております。

貴重な体験として、先の東日本大震災津波被災においては宮城県南三陸・西光寺所蔵の古文書類1500冊の保存処理が奈良大学文学部文化財学研究室を中心に行われ、担当教授の西山先生のご厚意で「被災文書の保存」に係わらせていただく機会がありました。

いろいろな経験とボランティアさんたちの研鑽の中で、日々活躍いただいております。活動の一端を写真でご覧ください。



事業報告

企画展・催物一覧

日時・期間	企画展
4月27日(金)～7月8日(日)	町指定文化財「勝幡寺 薬師如来立像」速報展
5月11日(金)	写真展「桜井駅跡の想い出スナップ」
7月11日(水)～8月26日(日)	広瀬遺跡発掘調査速報展
9月12日(水)～10月18日(木)	秋の企画展「近世の離宮八幡としまもと—社家文書を通して—」
10月31日(水)～12月9日(日)	秋の展示「水無瀬駒 関連資料」
11月17日(土)・18日(日)	実物展示「象戯圖」
12月19日(水)～1月30日(水)	島本の神事「山崎地区：椎尾神社」
1月4日(金)～1月30日(水)	新春企画展「しまもとの郷土かるた」原画展
2月1日(金)～3月3日(日)	民具・農具展「むかしのくらしと農家のしごと」

日時・期間	催物
4月15日(日)	第26回コンサート「船橋 茉莉子ピアノリサイタル」
5月12日(土)	講演会 「柏木宏之の世界—桜井駅跡『正成・正行親子の別れ』朗読会」 毎日放送アナウンサー 柏木 宏之 氏
5月26日(土)	第27回コンサート 「Ensemble Bella Notte ～ヴァイオリン、チェロ、ピアノの三重奏」
7月21日(土)	体験学習「土器洗いをしてみよう!!」①
7月28日(土)	体験学習「土器洗いをしてみよう!!」②
8月11日(土)	体験学習「土器洗いをしてみよう!!」③
9月9日(日)	第28回コンサート「村瀬 響ヴァイオリンコンサート」
9月15日(土)	講演会「近世の離宮八幡としまもと—社家文書を通して—」 大阪府立大学名誉教授 山中 浩之 氏
10月20日(土)	第29回コンサート「上田 晶子ヴァイオリンリサイタル」
11月18日(日)	第30回コンサート「津田 由紀子ソプラノコンサート」
12月2日(日)	第31回コンサート「吉久 夏子ピアノリサイタル」
3月31日(日)	第32回コンサート「鎌田 純子ピアノリサイタル」

公募による催物一覧

日時・期間	内容
4月14日(土)	オカリナ"ぶぶ"「オカリナ春のミニコンサート」
5月13日(日)	大人のピアノサークル カンタービレ 「ピアノサークル カンタービレ 発表会」
7月4日(水)～7月8日(日)	島本竹工房「七夕飾り」設置
7月31日(火)	直心吟詩会「第二回直心吟詩会 直心青葉吟詩会 発表会」
8月25日(土)	島本竹工房「第十二回かぐや姫の夕べ」
10月16日(火)	島本町婦人協会童謡クラブ「一緒に歌いませんか？」
11月17日(土)・12月1日(土)	島本町「水無瀬駒」による地域活性化事業実行委員会 「中将棋教室」
3月30日(土)	ふるさと島本案内ボランティアの会(ペーパークラフトチーム) 「龍天館の模型(ペーパークラフト)の展示・製作実演」

入館団体

平成24年度(2012)	
4月25日	鳥本町新規採用職員研修(鳥本町) 1団体
5月13日	大阪文芸振興会(大阪市)
5月19日	晴友吟会(大阪市)
5月27日	奈良大学(大阪等)
5月29日	ふるさとボランティア研修(鳥本町) 4団体
6月1日	鳥本町新任教員初任者研修(鳥本町)
6月5日	史遊会(茨木市)
6月7日	りんどう学園とび学科(川西市)
6月10日	ユニハイム山崎自治会(鳥本町)
6月28日	歴史ウォーク(神戸市) 5団体
7月5日	よみうり文化センター歴史ウォーク(近畿)
7月7日	よみうり文化センター歴史ウォーク(近畿)
7月11日	NPO法人アクトエイジング(八尾市)
7月13日	結歩会ウォーキング(豊中市)
7月14日	流通科学大学オープンカレッジ(宝塚市)
7月16日	大阪府高齢者大学中世科(大阪市)
7月18日	歴史同好会(大阪市)
7月18日	四象園健康ロード(四象園市) 8団体
8月30日	種福詩吟の会(京丹波町)
8月31日	『明月記』研究会(東京) 2団体
9月2日	どこボラぽころ会(豊中市)
9月4日	朝日カルチャーセンター京都純学散歩講座(京都)
9月12日	朝日カルチャーセンター京都純学散歩講座(京都)
9月27日	朝日カルチャーセンター京都純学散歩講座(京都) 4団体
10月13日	関西学院大学法学部「鳥本町の未来を考え歩く会」(鳥本町)
10月26日	大阪府年金者連盟(大阪市) 2団体
11月2日	阪急京都線沿線観光あるき(大阪市)
11月3日	武田薬品PV(鳥本町)
11月7日	藤井寺ウォーク(藤井寺市)
11月15日	大山崎歩こう会「長寿苑」(大山崎町)
11月15日	炊田千一老人クラブ(炊田市)
11月16日	智恵会「詩吟の会」(豊中市)
11月17日	百人一首の会(京都市)
11月22日	コープこうべカルチャー大阪北(大阪)
11月22日	鳥本町消費生活相談会(鳥本町)
11月23日	京都市ソフトボールクラブ(京都市)
11月27日	富田林高校同窓会(富田林市) 11団体
12月5日	万代万寿クラブ(大阪市)
12月7日	阪急京都線沿線観光あるき(大阪市)
12月19日	歴史愛好家の会(大阪市) 3団体
1月20日	びわこテッククラブ(浪速区)
1月27日	ハイキング同好会(堺市) 2団体
2月6日	町立第二小学校 3年生(鳥本町)
2月7日	町立第三小学校 3年生(鳥本町)
2月8日	町立第四小学校 3年生(鳥本町)
2月9日	パナソニックエコシステムズ松寿会(大阪市)
2月14日	町立第一小学校 3年生(鳥本町)
2月26日	鎌歩会(北摂地区)
2月26日	大山崎町・鳥本町合同観光セミナー(大山崎町・鳥本町) 7団体
3月1日	阪急京都線観光あるき(大阪市)
3月2日	西塾会(京都市)
3月15日	ストレッツ3K会(高槻市)
3月26日	自敬寺護持会(大阪市)
3月26日	タダ歴史街道メンバー(大阪府下) 5団体

年間 54 団体入館

日誌抄録

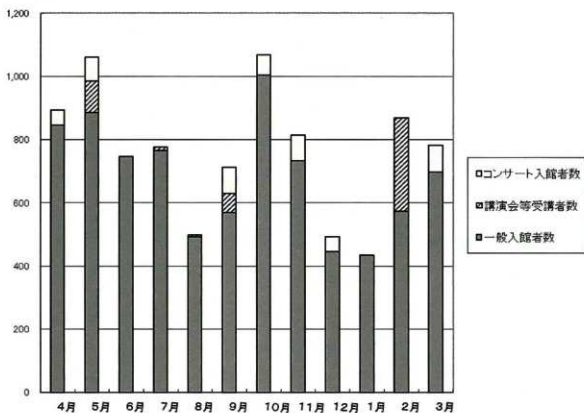
平成24年度(2012)	
4月12日	資料館ボランティア定例会
4月14日	公募による催物「オカリナ春のミニコンサート「オカリナ」ぶふ」
4月15日	第26回コンサート「船橋 葉前子 ピアノリサイタル」
4月27日	町指定文化財(第4号)「勝勝寺 薬師如来立像」写真パネル展示(～7/8)
5月10日	消防設備点検 資料館ボランティア定例会
5月11日	写真展「桜井秋雄の想い出スナップ」
5月12日	講演会「柏木室之の世界－桜井秋雄「正成・正行親子の別れ」朗読会」 毎日放送アナウンサー 柏木 室之 氏
5月13日	公募による催物「ピアノサークル カンタービレ 発表会」
5月26日	第27回コンサート 『Ensemble Bella Nota』～ヴァイオリン・チェロ・ピアノ～
6月7日	資料館ボランティア定例会
6月14日	消防訓練
6月28日	資料館ボランティア定例会
7月4日	公募による催物 セタ飾り設置(～7/8)
7月11日	「広瀬道雄速報展」(～8/26)
7月12日	資料館ボランティア定例会(土器接合)
7月19日	資料館ボランティア定例会(土器接合)
7月21日	体験学習「土器洗いをしてみよう」①
7月28日	体験学習「土器洗いをしてみよう」②
7月31日	公募による催物「第二回直心吟詩会 直心青葉吟詩会発表会」
8月11日	体験学習「土器洗いをしてみよう」③
8月25日	公募による催物「かぐや姫の夕べ」
9月6日	資料館ボランティア定例会
9月9日	第28回コンサート「村瀬 響ヴァイオリンコンサート」
9月12日	秋の企画展開催(～10/18) 「近世の離宮八幡としまもと－社家文書を通して－」 京都新聞取材
9月15日	講演会「近世の離宮八幡としまもと－社家文書を通して－」 大阪府立大学名誉教授 山中 浩之 氏
10月4日	資料館ボランティア定例会
10月16日	公募による催物「鳥本町婦人協会重鎮クラブ」
10月20日	第29回コンサート「上田 昌子ヴァイオリンリサイタル」
10月31日	展示(～12/9)「水無瀬駒 関連資料」
11月17日	『象徴園』実物展示(～11/18)
11月17日	公募による催物 中得棋教室(1回目)
11月18日	第30回コンサート「津田 由紀子ソプラノコンサート」
11月29日	資料館ボランティア定例会
12月1日	公募による催物 中得棋教室(2回目)
12月2日	第31回コンサート「吉久 夏子ピアノリサイタル」
12月7日	消防設備点検
12月19日	企画展開催(～1/30)鳥本の神事「山崎地区：権尾神社」
1月4日	企画展開催(～1/30)「しまもとの郷土かるた」原画展
1月8日	資料館ボランティア定例会
2月1日	企画展開催(～3/3)「むしかのくらしと農家のしごと」
2月21日	資料館ボランティア定例会
2月21日	たかつきケーブルテレビ撮影
3月8日	消防点検
3月21日	資料館ボランティア定例会
3月30日	公募による催物「羅天館の模写(ペーパークラフト)の 展示・製作実演」
3月31日	第32回コンサート「藤田 純子ピアノリサイタル」

利用状況

平成 24 年度入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般入館者数	847	886	746	765	493	569	1005	733	445	434	573	698	8,194
講演会等受講者数	0	99	0	11	4	61	0	0	0	0	296	0	471
コンサート入館者数	47	76	0	0	0	83	63	81	47	0	0	85	482
総入館者数	894	1,061	746	776	497	713	1,068	814	492	434	869	783	9,147

入館者数(人)



寄託・寄贈

平成 24 年度は 10 点の寄贈をいただきました。ありがとうございました。

内容	点数	内容	点数
電気アイロン	1 点	五玉そろばん	1 点
油入れ	1 点	レジスター	1 点
電気炊飯器	1 点	電話機	1 点
祝御枕	2 点	外壁取付 両面時計	1 点
土臼	1 点		

合計 10 点

発行	刊行物名	発行	刊行物名
	都市環境文化財調査報告書 第140号 金沢通跡3000-2) 発掘調査報告書—北区金沢町所台—	公益財団法人長岡城市 環境文化財センター	センター設立30周年記念誌 埋もれていた歴史 2012
	都市環境文化財調査報告書 第141号 標準都市部跡発掘調査報告書—SKT1054地点・道之町西1—	奈良文化財研究所	鎌倉時代の庭園—方と東国— 平成23年度 庭園の歴史に関する研究論文 報告書
堺市教育委員会	平成23年度 長瀬河川事業発掘調査報告書 大島神社跡 堺標準都市部跡—SKT1057— 長曾根通跡 花田通跡 導線通跡—SKT1059— 八咫野通跡 陶器発掘跡 堺標準都市部跡—SKT1062— 土師土器通跡 長曾根通跡 北三國平丘通跡 堺標準都市部跡—SKT1066— 堺標準都市部跡—SKT1064— 御島山立塚—大仏通跡 史跡 御ツツ通跡	奈良文化財研究所 環境文化財センター	環境文化財ニュース 146—149
		松江市教育委員会	平成23年度発掘調査文化財調査報告書 松江市文化財調査報告書 第30号
堺市	堺市教育委員会	堺市教育委員会	堺市標準都市部跡調査報告書 09-1区 阪市部遺跡文化財発掘調査報告書ⅩⅩⅩ
堺市教育委員会	百舌鳥古墳群の調査④	堺大新市 教育委員会	一市民が選んだ— 郷土の人々 堺大新市遺跡文化財発掘調査報告書 一平成23年度— 堺大新市の遺跡文化財 改訂版 一わが街新発見—
堺市文化観光局	ニサンヱ古墳群調査報告書 現地見学会資料	堺大新市立 郷土博物館	堺大新市の遺跡文化財 平成24年特別展示 河内内所田会に贈られた道具
奈良国立大学 人間文化学部	人間文化 vol.22	秋田市教育委員会	秋市市遺跡文化財発掘調査報告書 2011 特別展示 百済寺跡 平成22年度確認調査報告 特別展示 百済寺跡 平成23年度確認調査報告 秋市市遺跡文化財発掘調査報告書 2010
奈良県市 教育委員会	前島井遺跡発掘調査報告書	藤原一夫先生 遺跡刊行会	藤原一夫先生 遺跡誌
四天王寺	重要文化財四天王寺跡南西角 一決壊品目— 平成二二三年度文化財移送した仏具類類—地域活性化事業		古市古墳群 藤井市発掘調査報告書 第3号 林道跡(72009-2区) 藤井市発掘調査報告書 第3号 北照通跡(72009-4区) 藤井市発掘調査報告書 第4号 はまみ通跡(72007-1区) 藤井市発掘調査報告書 第5号 高井寺通跡(72008-1区) 藤井市発掘調査報告書 第6号 北照通跡(72010-1区) 藤井市発掘調査報告書 第7号 はまみ通跡(72010-4区) 石川流域群野発掘調査報告書ⅩⅩⅩ 藤井市市文化財報告書30号
秋田市立博物館	秋田市立博物館 総覧12 平成22年度(2010年度) 秋田市立博物館 総覧13 平成23年度(2011年度) ついでに(博物館だより No.30) 秋田市立博物館だより 第51号—第53号 平成24年度秋季特別展「ニウタクン平賀記展—千景史・DREAM—」 オノ/導遺跡発掘調査報告書Ⅰ—第1次—第3次発掘調査— 志志原新跡—出土瓦類報告書① 中西宮文書群①—平成二二三(2011)年度調査— ついでに歴史散歩<増補版>	藤井市市 教育委員会	石川流域群野発掘調査報告書ⅩⅩⅩ 藤井市市文化財報告書31号 石川流域群野発掘調査報告書ⅩⅩⅩ 藤井市市文化財報告書32号
泉南市教育委員会	泉南市遺跡群発掘調査報告書ⅩⅩⅩ 泉南市文化財調査報告書 第32号	文化庁・平賀町歴史文化 遺産活用実行委員会	平野大墓・大墓台発掘調査報告書 平野大墓文化遺産大ニステ—大墓台発掘調査所案
太子町立竹内沼田 歴史資料館	太子町立竹内沼田歴史資料館 総報 第17号	遺跡保存財団 教育委員会	永原市文化財ニステ 佐太第 第34号—第36号
大東市教育委員会	河合堂文書Ⅰ	松原市教育委員会	たじひのたより 松原市文化財情報誌 No.10—No.11
大東市立 歴史資料館	大東市立歴史資料館 市民学芸部HP(2011) 第4号—第5号		平成23年度 港区指定文化財 平成23年10月26日指定 港区指定文化財調査年報 9—平成22年度の調査— 港区考古学プロジェクト4 港区の先史時代Ⅱ港区の弥生時代 ジョサイロ コンドル 港区文化館2
高石市教育委員会	高石市文化財情報誌 平成21—22年度	港区教育委員会	資料館だより 第69号 港区立遺跡土資料館へついでみよう! 第3号 研究紀要14 平成22年度
高槻市教育委員会	織土瓦葺 高槻資料コレクション—伏見人形—	港区立遺跡土資料館	平成23年度特別展 安房山—江戸から東京へ— 平成24年度特別展 江戸の大名の御着せ
高槻市立 しんあつと歴史館	しんあつとより 第4号 高槻まちからの石遺物 天下統一と高槻 しんあつと歴史館 永井清満調査資料市指定記念特展 神に なつた殿様—永井神社の名宝と高槻— 高槻市立しんあつと歴史館 春季特別展「南雲との出会い—高 山石返と大友宗麟の時代—」	宗鏡法人 妙圓寺 国立民族学博物館 文化庁科学館	国指定天都記念物 妙圓寺のソツツ再生事業報告書 月刊みんぱく 2013年2月号 博物館 これからの博物館
田尻町教育委員会	田尻町内遺跡群発掘調査報告書13	八尾市教育委員会 生涯学習部文化財課	八尾市文化財調査Ⅰ—八尾市文化財調査委員会10周年記念 会 文化財調査報告 記録集—歴史資料のまち 2010文化財 誌—
帝塚山大学 考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所発掘報告ⅩⅩⅩ		八尾市の文化財Ⅱ 八尾市文化財調査委員会10周年記念 会やぶの文化財—いしへの礎のき—
帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館発掘Ⅰ—第Ⅰ号—		八尾市立遺跡文化財調査センター 平成23年度秋会企画展 養老園内 やぶの弥生時代Ⅰ(前期～中期)—一件文化の広 がりくらし—
公益財団法人 伝統文化 推進協議会	伝統文化 No.44—No.46	八尾市教育委員会	八尾市文化財調査報告④7 藤原寺堂遺跡研究報告書 八尾市文化財調査報告④9 平成23年度国庫補助事業 八尾 市内遺跡群平成23年度発掘調査報告書
愛知県 東海教育委員会	愛知県東海市 平成22年度 御前-東郷-御中遺跡発掘調査 報告書		八尾市文化財調査報告④8 平成23年度国庫補助事業 高安平塚古墳群基壇調査報告書(本文版) 八尾市文化財調査報告④9 平成23年度国庫補助事業 高安平塚古墳群基壇調査報告書(資料版)
富山考古資料館	富山市考古資料館誌 No.49 富山市考古資料館紀要 第31号	八尾市教育委員会	八尾市文化財調査報告④8 平成23年度国庫補助事業 高安平塚古墳群基壇調査報告書(資料版)
富山県教育委員会 環境文化財センター	富山県教育委員会環境文化財センター所報 No.13 富山市の 遺跡物語		
富中町教育委員会内 丹波 土庫発掘調査報告書Ⅱ 富中町教育委員会(富中) 遺跡調査会	上津島発掘調査—豊津津地定地・古代「河尻」域における集落 遺跡の発掘調査—	公益財団法人八尾市 文化財調査研究会	平成23年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告書 八尾市文化財調査研究会
長岡市教育委員会	第四回企画展「中集村 引継がれた記録」 長岡市文化財調査報告書 第41冊—第53冊		「波羅窟定公院」30周 年記念シンポジウム 実行委員会
公益財団法人長岡市 文化財センター	センター設立30周年記念誌 埋もれていた歴史 2012		「波羅窟定公院」30周 年記念シンポジウム 実行委員会

町指定文化財一覧

島本町文化財保護条例が平成 20 年 7 月 1 日に施行されました。

島本町文化財保護審議会にて審議いただき下記の文化財が指定されました。

平成 21 年度

島本町指定文化財 第 1 号

名称 : 水無瀬駒 関連資料
 指定日 : 平成 21 年 4 月 14 日
 所有者 : 水無瀬神宮 (個人)
 所在地 : 広瀬三丁目
 種類 : 有形文化財
 種別 : 美術工芸品 (歴史資料)
 員数 : 小将棋 (漆書・八十二才銘)
 一揃 合計 39 枚 飛車が欠落
 中将棋 (墨書・八十六才銘)
 一揃 合計 91 枚 歩兵が欠落
 中将棋 (漆書) 残欠四枚
 象戯圖 一卷
 附 象戯圖 一卷
 時代 : 安土桃山時代

平成 22 年度

島本町指定文化財 第 2 号

名称 : 神像 (伝 聖徳太子七歳像)
 指定日 : 平成 22 年 4 月 5 日
 所有者 : 若山神社
 所在地 : 大阪市立美術館 寄託
 種類 : 有形文化財
 種別 : 美術工芸品 (彫刻)
 員数 : 1 軀
 品質・形状 : ヒノキ材・一木造り・
 彫眼・彩色仕上げ
 法量 : 像高 35.8cm
 時代 : 平安時代後期

平成 23 年度

島本町指定文化財 第 3 号

名称 : 宝城庵 薬師如来立像
 指定日 : 平成 23 年 4 月 1 日
 所有者 : 宝城庵
 所在地 : 桜井三丁目
 種類 : 有形文化財
 種別 : 美術工芸品 (彫刻)
 員数 : 1 軀
 品質・形状 : ヒノキ材・一木造り・
 彫眼・彩色仕上げ
 法量 : 像高 96.5cm
 時代 : 平安時代後期

平成 24 年度

島本町指定文化財 第 4 号

名称 : 勝幡寺 薬師如来立像
 指定日 : 平成 24 年 4 月 1 日
 所有者 : 勝幡寺
 所在地 : 山崎四丁目
 種類 : 有形文化財
 種別 : 美術工芸品 (彫刻)
 員数 : 1 軀
 品質・形状 : ヒノキ材・割矧ぎ造りか・
 彫眼・漆箔仕上げ
 法量 : 像高 150.1cm
 時代 : 鎌倉時代

島本町指定文化財 第 1 号 追加

名称 : 将基馬日記
 指定日 : 平成 23 年 4 月 1 日
 所有者 : 水無瀬神宮 (個人)
 所在地 : 広瀬三丁目
 種類 : 有形文化財
 種別 : 美術工芸品 (歴史資料)
 時代 : 17 世紀初期
 員数 : 一冊



勝幡寺 薬師如来立像

島本町立歴史文化資料館 館報 第5号
平成24年度版(2012)

発行 島本町教育委員会

〒618-8570

大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号

TEL 075-961-5151

発行日 平成25年9月

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093

京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300

TEL 075-256-0961

